

藝文いちかわ

市川市芸術文化団体協議会は、市内における各種芸術文化団体相互の協力と理解を深めるとともに、市川市の芸術文化の振興に寄与することを目的とする。

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会名誉会長

市川市長 田中 甲



市川市は豊かな自然や歴史、文化資源に恵まれ、多くの芸術家や文化人に愛された文教都市として発展してまいりました。現在その中心を担ってくださっているのが、能村会長をはじめとする市川市芸術文化団体協議会の皆様であり、昭和49年の設立以来、長きにわたり本市の芸術文化の普及、発展に多大なるご協力をいただいております。

図らずも私が名誉会長を務めさせていただいておりますが、協議会の皆様、市民が本市の歴史や芸術文化を身近に触れる機会の創出や市川市内における芸術文化団体の相互協力と理解を深める取り組みを精力的に行っていることに対し、深く敬意を表します。

今年度は千葉県誕生150周年の節目の年であり、各地で「百年後芸術祭」が開催されています。市川市でもその企画のひとつとして「いちかわ芸術祭」を開催いたします。また、本市は本年11月に市制施行90周年を迎え、それに合わせて市川市の最大の特徴である文化芸術をさらに醸成する機会にしたいと考えております。また、皆様とお約束した美術館の

ご挨拶

市川市芸術文化団体協議会

会長 能村 研三



建設もスタートさせる年にしなければなりません。文化・芸術は、暮らして豊かさや彩をもたらす地域活性化の源です。5月に設立50周年を迎える市川市芸術文化団体協議会にも引き続きお力添えをいただき、本市と一緒に活気づけていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

今年辰年。龍の年として知られ、力強いシンボルとして幸運を呼ぶとされています。龍が水や雲、翼を得るように、持てる力を存分に発揮して、飛躍する一年にしていきたいと思います。

今年私は私たち市川市芸術文化団体協議会にとっても、創設50周年の記念すべき年でもあります。

例えば昭和四十九年、市川美術会の藤野天光氏、市川交響楽団協会の村上正治氏を中心になって結成された市川市芸術文化団体協議会は市川市の協力のもとに文化芸術都市に相応しい文化活動を展開してまいりました。

中でも、平成四年に開催された全日本文化集會では、市川市の文化レベル、当協議

会の結束の強さを全国の文化団体に示すことが出来、高い評価を得ることになりました。

昨年五月、新型コロナウイルスの5類移行したことにより、昨年はコロナ禍以前の活動が可能となり、約三年にわたるコロナ禍での行動制限からついに日常生活を取り戻せたことは、多くの人々にとって明るい気持ちにしてくれました。

最近一気に話題が広がったことと言えば「生成AI」のことでしょうか。チャット、GPTなど生成AIを駆使して、さまざまな文化芸術作品を生み出すことが可能な時代となったことですが、せめて私たちはこうしたAIに頼ることなく私たちの自己表現の場として文化活動を展開していきたいと思っています。

本年八月に予定している市川市芸術文化団体協議会創設50周年記念芸術文化集會は八月五日から十一日までの間、市川市文化会館において開催を予定しており、各団体の参加はもとより、市の協力を得て一昨年に開催した「カルチャー&アートフェア」の時のように市内で活躍する個人アーティストや芸文協以外の参加を得て、様々なジャンルの大小ホールでの舞台公演、展示室での作品展示を開催したいと考えております。

今後は市川市の行政とともに連携しながら、より市民文化の発展のために一層努力していきたいと思っておりますので、皆様のご協力、ご支援をお願いしたいと思います。



第30回芸術文化集会 を振り返って

展示部門総括

市川市芸術文化団体協議会常任理事 渡辺 成良

近年、市民の生涯学習が強く求められています。公民館活動などの文化芸術大衆化運動から、さらなる充実感や幸福感を求めていくことが必要です。

文化芸術行動は社会の不安定さと共に、少なからず衰退の傾向が見られます。このような時代だからこそ、「魅力的な」そして若手・後進を育む、市川の文化芸術活動の中核としてのみならず、新しい活動を構築していくために、芸文協会員一同の共同作業として携え直すことが大切です。

今回、芸文集会における展示部門は、全日警ホール2F文化の広場カウンター・2F第2展示室・会議室にて展示部門の多彩な展示、体験コーナーなどが開催されました。今回の展示は特に、各団体の特徴が顕著に表出できる展示を心がけました。各団体を代表する作家の作品を、ゆつくりと鑑賞できる空間となっていました。卓越した作品群は、見応えあるもので、簡素で、整然とした空間構成は充実した空間を演出していました。

公演部門総括

市川市芸術文化団体協議会副会長 酒井 玄枝

コロナ禍を乗り越え待ちに待った日常が戻り、秋の気配を感じる9月12日より17日まで「第30回芸術文化集会」を開催しました。17日のホール公演は、開会式に続く高山修一氏の基調講演「断腸亭日乗に見る戦後市川とおひとりさま荷風」では、戦後の市川と荷風の興味深い人となりを見聞することができて時を忘れました。続く舞台公演は、市川市洋舞踊協会、装道礼法きもの

学院千葉県認可連盟市川支部、市川民話の会、市川市合唱連盟、市川オペラ振興会、市川市芸能協会の7団体が参加しました。

開催テーマ「友」のもと、加盟団体の特色あるステージは芸文協ならではのものです。洋舞踊協会の子供たちのかわいらしいステージは微笑ましく、装道礼法きもの学院によるミセスの礼装着付けではその美しさに見とれ、久しぶりに和服を着てみたいと思えました。市川にのこる懐かしい民話の語りに聴き入り、合唱連盟の美しいアカペラのハーモニー、オペラ振興会による懐かしい曲の独唱と続きました。最後のステージは芸能協会のかつばれの演舞や八幡下町ゆうづる太鼓の演奏でにぎやかに幕となりました。

芸文協は来年設立50周年を迎えます。より多くの市民の皆様に参加していただく事を目標に事業を進めて参りたいと考えます。

今後も加盟団体の会員と市民の皆様との交流の場所として、「芸文協芸術文化集会」を大いに楽しんでいただければ幸いです。

文化集会基調講演

テーマ「断腸亭日乗にみる

戦後市川とおひとりさま荷風」

講師 高山 修一 氏

基調講演を拝聴して

市川市芸術文化団体協議会事務局 本池美佐子

基調講演の講師として、朝日新聞社京葉支局長・千葉総局などを勤められた高山修一氏をお迎えして、永井荷風についての貴重なお話を聞くことが出来ました。

冒頭の掴みとして、「断腸亭日乗」という作品名にはどんな意味があるのか、ついつい話に引き込まれてしまった。「断腸亭」これは荷風が自分は腸が弱いと信じていたこと、更に荷風の家の庭には断腸花、即ち

秋海棠の花がたくさんあったこと。「日乗」の「乗」は記録という意味、従って「断腸亭日乗」は永井荷風の日記と言うことであつた。

東京大空襲で焼け出された荷風は、昭和21年1月16日に市川市に引越して来た。

「断腸亭日乗」は鹵に衣着せぬ言葉で戦前・戦中を語っている。戦後出版の自由が認められる迄これを隠し通せた事は奇跡に近い。

「断腸亭日乗」について、或る作家は大河小説のようだと評している。

なぜなら、その中には森羅万象が表現されているから。また、高山氏は見方によつて様々な模様が現れる万華鏡のようだと表現された。

作品集「葛飾土産」は真間川沿いを散歩したときの市川市の様子も書かれているらしい。荷風は結婚の経験があるものの、殆ど一人の生活であつた。気儘な暮しは時として、他人の目には奇異に映ることがある。しかし、荷風は市川の芸術文化の柱の一つであることは確かである。晩年の「断腸亭日乗」には天気と食べたもののだけが書かれているようだ。好物は大黒屋のトンかつであつた。

俳句協会 ワークショップ 「俳句の句会の実際」

俳句は「座の文学」ともいわれ俳句の面白みは「句会」にある。互いの作品を評価し、意見・感想を述べ合うのが句会である。褒められればうれしいが、誰にも評価されないこともある。そういう時は恥ずかしい思いもする。そこで句会は「恥かき場」ともいわれる。恥をかきながら、いつしか俳句が上達してゆくのである。

市川市では、毎月市内各所で約30以上の句会がおこなわれている。こうした様子を、一般市民は日頃目にすることはほとんどない。市川市民に句会の楽しさを知ってもら

おうと今回はワークショップとして句会を行った。

今回は沖俳句会の上級者による句会「沖同人句会」を公開し、見学者には選句にも参加してもらった。句会は45名。一般市民の参加は21名であつた。俳句雑誌の紹介、新聞への投句案内、地域新聞への投句案内、さらには俳句結社への参加方法などを紹介する資料を展示、配布した。

市川市花道協会

今秋の文化集会は、コロナ禍による規制が終わり、ようやく日常を取り戻しつつある中、大勢の方にお越し頂き、いつもとは違った新しい展示の形、作家の紹介など美術館のようだと好評でした。

花道協会の展示は俳句協会とのコラボも、ロビーのカウンターでの室礼も定着してきました。近年の地球温暖化による異常気象で酷暑が続ぎ、花材の育成困難が私たち活けてにとつて痛手となっていますが、何とか希望の花材を揃えて前後期で六作品をご披露する事が出来ました。季節や花材なども含めて表現方法などを工夫して、これからも皆様に楽しんで頂ける生け花を続けてまいります。



市川市俳句協会

文化集会 俳句の部の展示について

1. 市川市俳句協会を代表する俳句作家3名のパネル紹介(色紙・短冊・句集)を行った。いずれも結社の主宰または代表として活躍中である。

①能村研三。沖俳句会主宰、市川市俳句協会会長、市川市芸術文化団体協議会会長、公益社団法人俳人協会理事長、千葉県俳句作家協会会長、などを務めている。

②加藤峰子。鴨俳句会代表、市川市俳句協会副会長、千葉県俳句作家協会事務局長など。若き俳句指導者である。

③増成栗人。鴻俳句会主宰、市川市俳句協会顧問、公益社団法人俳人協会顧問、千葉県俳句作家協会顧問など90歳を超えています。元氣な俳人である。

2. 市川市花道協会とのコラボレーション展示を行った。俳句は今回の文化集会のテーマ「友」を詠んだものである。

会長 能村研三句

健やかな句座といふ友今日の月

副会長 加藤峰子句

友癒えよこの夕虹を仰ぎ見よ

副会長 谷口摩耶句

白薔薇の誰より似合ふ友なりし

副会長 栗原公子句

葛の花友にまだある北訛



輪の輪工芸美術会

今回の展示は、染色作家の木田悦子さんと手織り作家の石渡しづえさん二人の七点でした。

木田さんは藍染絞を中心に草木染を手掛け、絞り技法は繊細な表現とリズム的な表現で相性の良いミシン絞ホテル絞を好んでいます。作品は和洋衣料小物日用品と多岐に渡りますが、今回は分銅つなぎと帯、豪快な藍染タペストリーの出品でした。

石渡さんは日頃から独自の感性で織機に向かい、図柄などの設計図無しに予測のない布地を織りあげています。その作品は洋服を中心にマフラー袋物等を創作していますが、今回はウールのコート、絹のストールの出品でした。

本会は展示会場の入り口正面の広い壁面をいただいたので、大きな作品をゆつたりと展示することができました。デザインされた展示は見応え十分だったと思います。



芳香社

私共は墨彩画と言われる墨を主に色を従とし草花や風景などを和紙へ描き、自由に表現することを基本としています。

芸術文化集会には、主宰・池田蘭径の作品(50号)2点を出品しました。

作品の「クレマチス」は庭に毎年、鮮やかに咲く花をモチーフにしています。

また、「冬韻枝折戸」に書かれていた「香蘭亭」は、師・河口楽土先生より名付け

ていただいた思い入れのある作品となりました。作品2点を会場壁面にゆとりある展示とすることが出来ました。



宗 左近・蕊の会

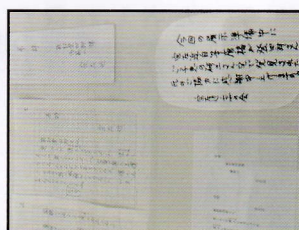
眠っていた資料を展示

宗左近は1980年代後半から、俳句に強い関心を抱くようになり、数多くの句集を読み込んでいました。その中で出会った俳人の一人が、市川在住の能村登四郎氏(1911~2001)でした。

同じ市川に家を構えていた俳人と詩人が、一緒に酒を飲み交わしたかどうかはわかりませんが、宗は、登四郎氏の句の素晴らしさを何度も書いています。

今回の企画は、この二人の交流の一端を見て頂きたいと考えてのことでした。その準備のさなか、登四郎氏のご子息である研三氏が、たまたま宗自筆の登四郎氏への弔辞を2年ぶりに発見されました。そして、その現物をお借りしてみなさんにみて頂けることになりました。

弔事の中で宗は、登四郎氏を「芭蕉、蕪村にも並ぶ人物」と称えています。このことは活字として残っていないため、忘れられていたことでした。眠っていた貴重な資料を展示できたことは、当会にとっても意義深いことであり、活動の励ましとなりました。



和心会 紫翠庵

直前に、新種感染が始まりましたので、4年振りの茶席で、気分は嬉しさの中、不安もあり万全の感染対策でおもてなしをしました。

心配を余所に大勢のお客様で賑わいが戻り活気づきました。大勢様の予想にも対応できる様に抹茶を余分に持参しておりました。

お客様は楽しい、美味しいと満喫して頂き、心をこめての一碗のおもてなしの甲斐があったと安堵しました。

茶席は「一座建立」を大切に、テーマ「友」に沿った御趣向にしました。

軸「歩々清風起」香台「鶴仙人」茶碗「遊唐子色絵」干菓子「紙風船二種」薄茶銘「和友の白、雲鶴、緑の縁」茶杓銘「共白髪」でした。



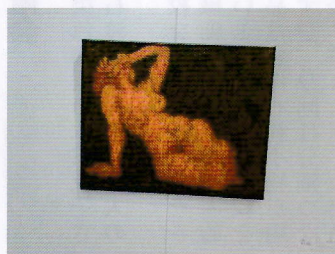
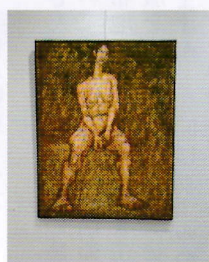
市川美術会

芸文協に再加入し作品参加をさせて頂きました。

市川美術会では洋画の名誉会員であります、泉水眞澄作品【をんな】三点、50号・30号の大作を展示いたしました。泉水氏には長年、市川美術会に力を注いで頂いております。精力的に作品作りを続けられ、また個展開催をされています。

じっくりと鑑賞していただき、「色合い、色の出し方、構図などさすが!」「今日は、作品を観られてよかった」「いい空間ですね」と思いを伝えてくださる方々がいらつしやいました。

歩み続けている歴史ある市川市芸術文化団体協議会の発展に寄与していきたいと思ひます。



市川市洋舞踊協会

市川市洋舞踊協会は9月17日に向けて練習を重ね5団体が参加しました。

三沢モダンバレエジャスダンススタジオ・森の仲間たち

すみれバレエクラシック

・トレバック ・ナポリの踊り

クラシックバレエ・シユエット

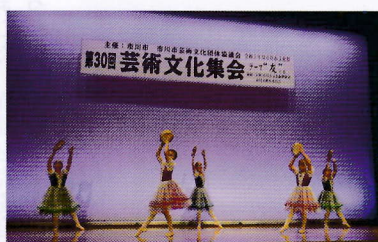
・くるみのマーチ

・ベイシティバレエアカデミー

・バリエーション集

・オダリスク

それぞれの個性を生かし、発表させて頂き、来場して下さった観客の方々にも楽しんでいただきました。



装道礼法きもの学院 千葉県認可連盟市川支部

秋風が待ち遠しい、まだまだ暑さの残る九月の第三十回文化集会では、振袖、留袖、小紋の着装を披露しました。

振袖は、若々しさの中にも美しく成長したわが子と思い、ミセスの第一礼装である留袖は、凛とした格調高い装いに、おしやれ着の小紋は、お召しになる方のその人らしさが表現できるように、それぞれの担当者が試行錯誤してきものの着装に挑みました。

きものを装う機会が少なくなってきた昨今ですが、それでも観光地などでは、お嬢さんたちのきものをよくお見かけします。私共装道は、今後も、きもの文化の普及、継承活動に力を注いで参ります。



市川民話の会

市川に伝わる昔ばなしを、本にしたり語ったりして、伝承する活動をしています。人と人とがつながり「友」となり、市川という街に軸足を置く人が多くなることを願っています。

今回は、葛飾八幡宮に因む話と、お盆の供養の話をしました。

最初は「梨の善六さん」の話です。『市川梨』の祖となった川上善六さんですが、その昔、美濃の国まで出かけて梨作りを学び、梨の枝（接ぎ穂）を枯らさないように、大根に挿し替え挿し替えをして市川まで運んできました。そして、八幡さまの境内で梨栽培に成功し、村人たちにも作り方を教え、『市川梨』が誕生したという話です。

『千本公孫樹』は樹齢千二百年、太さ12m、高さ22mの巨木で、国の天然記念物に指定され、秋にはライトアップもされます。言い伝えでは白蛇がたくさん棲んでいて、この白蛇を見ると良いことがあると言われたそうです。

『海坊主』の話は、行徳が漁師町であったころ、お盆に海に出ると足を引っ張られて海に引きずり込まれるといわれるように、漁師の人たちへの教訓です。市川の地域、地域に残る話を、これからも伝えていきます。



市川市合唱連盟

この度芸術文化集会という素晴らしい発表の場を頂きありがとうございます。

コロナ禍では練習の機会は減りましたが、私達ハミングバードは聴いていた方々の心に残る演奏を目指し練習して参りました。

当日会場は多くの来場者の皆さんが芸術文化を楽しんでいるのを見て、市川市の芸術文化への関心の高さを感じました。

今回はジャズミサ曲、花、浜辺の歌、上を向いて歩こう、すみれの花咲く頃を選曲しました。

私達が歌っている間、一緒に口ずさんでくださる方も見え、幸せな気持ちで楽しく発表することができました。

「聴いていて元気が出たよ」と感想をいただいた時はとても嬉しかったです。

今回私たちは合唱という分野で出演させていただきましたが、いろんな分野で活動される人たちが一つの場所に集まり発表することで、普段は目にしなかったことや初めて知った活動などもあり、このようなことがきっかけとなりまた違った芸術文化にふれる機会を持つことができた有意義な催しだと感じました。



市川オペラ振興会

「友」をテーマに、『大きな古時計』『借別の唄』『むこうむこう』『遙かな友に』の四曲をお届けさせていただきました。大切な友達がいます。それは皆様の心の中、私達の心の中にもいます。私達の歌で「想い」を伝えられたらと歌わせていただきました。お客さまからの温かい拍手にも支えられ無事公演終了となりました。

市川オペラ振興会では、本年度は、「オペラの観どころ・聴きどころ」珠玉の歌曲・オペラの愉しみ」と題し、市川市文化会館（てこなホール）小ホールにおいて、声楽の原点にかえって、イタリア古典、モーツァルトのオペラ等を中心として日本歌曲の数々をおとけさせていただきました。



市川市芸能協会

今回の芸術文化集会は、「光江流かつぽれ」と「八幡下町ゆうづる太鼓」が出演させて頂きました。

芸文集会は、日頃ふれる機会の少ない多くの芸術文化に出会えることに、出演する以外にも楽しい時間を過ごさせて頂きました。

私たちは、日本の伝統芸能、芸術を継承しながら、新しい時代へ発展させていくことを目的に頑張っています。これからもしっかりと研鑽を積んで日本の芸能の大切さを伝えて参ります。



市川交響楽団協会

市川交響楽団協会は市川市芸術祭・文化祭参加の「合唱の集い」を10月8日（日）に開催いたしました。

オーケストラ、吹奏楽に続く合唱部門の公演で、市川混声合唱団と行徳混声合唱団がそれぞれ趣の違う合唱曲を、そして合同ステージではバツハの「モテット3番」を弦楽アンサンブルとオルガンの伴奏で演奏しました。弦の音色とオルガンの響きにのつて、4声のハーモニーが気持ちよく会場に響き渡り、500有余名のお客様も大いに満足されました。

私たち市響は市内の健全な純音楽の普及と啓蒙をはかり、クラシック音楽の愛好者を増やし、平和で潤いのある生活が満ち溢れることを願う文化団体です。

合唱の集いも合同ステージではクラシックの合唱音楽を取り上げ、広く皆様へ宗教音楽の荘厳さや敬虔さを味わっていただくべく、日頃の合唱活動に取り組んでいます。



新しい芸文協の
ホームページです！

市川市芸術文化団体協議会加盟団体の情報は
芸文協のホームページにてご覧ください！！

市川市里見公園と

国府台を再発見しました！

令和5年度の市川市芸文協の研修会は、11月29日（水）31名の参加者で里見公園の散策からスタートしました。園内は、宗左近・蕊の会の田草川信慈さんが案内して下さいました。子供の頃から慣れ親しんだ公園ですが、今まで知らなかったことが沢山ありました。スタジイ、タブノキ、シラカシなどの巨木、そしてそれらは元々この地に生えていたものであること、里見氏と北条氏の古戦場でもあったこと、その時から公園になるまでの変遷も初めて知りました。

その後、和洋女子大学に移動し教室での昼食後、3人の学生さんも参加して、民話の会の方々に「不思議な鐘と鐘ヶ淵」「辻切り」「夜泣き石」を語って頂き、それぞれのお話の雰囲気も充分味わうことが出来ました。

小休憩の後、和洋女子大学准教授の小堀洋平先生の講演を聴講しました。先生の専門分野は田山花袋などの自然主義を中心とする日本近代文学ということで、田山花袋の「東京の近郊」という本の一部を資料として提供して頂きました。

東京の東郊と西郊の違いなどその当時の面影を彷彿とさせる言葉の表現にとっても興味を持ちました。その文章の中には、午前中に散策した里見公園からの眺望の素晴らしい書かれています。

頭のフル回転する充実した一日を過ごすことが出来ました。

担当 市川市花道協会



天空の文化祭 2024

令和6年2月12日(月・祭)～17日(土)

アイリンクタワーウェスト 45階展望室

地上45階での、芸文協加盟団体の、展示や公演と市川市が誇る眺望をお楽しみ下さい！！



市川市芸術文化団体協議会加盟団体による展示と公演

編集・発行 市川市芸術文化団体協議会 事務局 〒272-0021 市川市八幡 4-9-17 酒井玄枝方
TEL047-334-7832 HP <http://www.geibun.org/> E-mail: yfb36196@nifty.com